

Down Town Scape

酒井 裕樹 (指導教員 八尾 廣)

1. テーマ

都市で行われる様々な町の更新。複雑になっていく現代で今までの更新手法は私たちの生活,都市空間に対して対応できているのだろうか。

そこで、この提案では、その場所のコンテキストや魅力を分析し、その土地がもつ要素を抽象化することで、その場所の持つポテンシャルを引き出すような新たな都市の風景を挿入していく。

2. 敷地

敷地は横浜市中区野毛町。みなとみらいの南に位置するところにあり、それとは対照的に、小さなお店が軒を連ね、夜になると飲み屋街として活気に溢れている魅力ある場所です。しかし、近年、建物の老朽化などで、街として更新が行われているのですが、そのやり方が、この街の魅力が残るように行われているとは考えられません。



図1 広域図



図2 周辺写真

3. コンセプト

そこで、街の更新に合わせた集合住宅を提案します。ここでは、飲み屋街独特の要素、魅力であるコミュニティとコンテンツのあふれ出しなどの要素を生かしながら設計をしていきます。

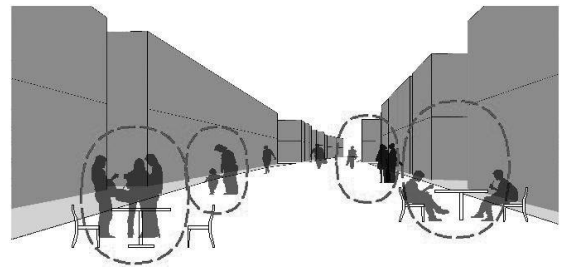


図3 この街におけるイメージ図

4. 計画・低層部分

全体の構成として 1,2F はショップや飲食店,3F以降は住居となっています

始めに 1,2,F の説明をします。既存の建物のあるスキマに壁を挿入し、その間にテナントが入り、その内部やファサードは入居者ごとに自由に設計してもらいます。1,2F は既存の形や間口をほとんど変えず、今の風景を再現するように更新していきます。

また、新たに挿入するものとして、既存であった駐車場はガラス曲面に覆われた緑化された広場に変えて新たなコミュニティスペースをつくっています。この場所は街区の内側に広がり、既存の風景というのを、浸食せずにあります。

全体の構成として、この緑化されたコミュニティスペースが空気として上へもつながりコミュニティと緑のパワーが内側の広場から外側の街区へとあふれ出すイメージで設計しています。

5. 計画・住居部分

次に 3F 以降の住居の説明をします。集合住宅は 1,2F の広場を囲むように配置しています。1,2F

の小さなヴォリューム感とは対比的に大きなヴォリュームがファサードを変えながらずれていくことで、このまちの雑多な雰囲気とカオティックな部分を表現しています。

また、ずれながら隙間を空けることで、コミュニティの場となり、1,2Fの緑化されたコミュニティスペースの空気感が内側から街区へとあふれ出し、様々な関係を生むと思っています。

6. まとめ

こうしてできたこの空間は、都市の魅力を顕在化させ、そこにしかない魅力を詰め込んだ場所になっていくと思います。



図4 全体模型



図5 部分模型



図6 模型写真各種